

2016年 第7回高校生の「建築甲子園」表彰式



受賞のことは

このたびは建築甲子園優勝という栄えある表彰を受け取ることができ、とてもうれしく思います。この賞をいただくにあたり、お忙しいなか、私たちのために指導をくださった藤井先生と、作品の評価をくださった審査員の方々には大変感謝しています。

富山工業高校建築工学科では、1～3年生が年間を通してさまざまな設計コンペに取り組んでいます。しかし、今回の建築甲子園では、個人で参加してきた設計コンペとは異なり、先生も含めたチームによる活動であったため、案出しや調査、ミーティングを繰り返すという、時間と根気のいる大変な作業でした。先生や他のメンバーの人に頼ってしまい、図面や模型製作のクオリティをなかなか上げることができず、何度も先生から厳しい指摘を受け、試行錯誤を繰り返しました。そうするなかで、やるからには優勝をめざしたいという先生の熱意が徐々にチームに広がっていき、メンバー全員が高い意識をもって製作に取り組んだことで、納得のいく密度の濃い作品を完成させることができました。

今回、私たちは、「時」「モノ」「人」という3つのキーワードを相互に関連させ、団地をマーケットヘリノペーションしていくという提案をさせていただきました。そして、このコンペを通じて、たとえ小さなアイデアであっても、それが人々から共感され、賑わいを生み出し、もしかしたら本当に社会を良くしていけるのではないかと、という大きな可能性を感じました。これからは、「建築甲子園優勝」という素晴らしい経験を糧とし、社会に対して、建築で何ができるのか、という強い問題意識をもって、しっかりと建築を学んでいきたいと思っております。

本当にありがとうございました。

準優勝

老人の街づくりプロジェクト

～従来の静かな老人ホームではなく
賑やかなコミュニティスペースと一体化した生活空間へ～

山形 | 山形県立新庄神室産業高等学校 選手…3年生[男子3名、女子1名]



郊外に大型店舗や家電量販店ができ、活気がなくなってしまった新庄市駅前商店街を高齢者により活性化を図る提案である。病院や役場など公共施設が近くにある町なかが高齢者施設を設ける利点を挙げ、同時に商店街の賑わいも取り戻すことができるとしている。

道路に面した空き店舗と裏側の空き屋を有料老人ホームやコミュニティセンターなどの施設に改装し、連絡通路や共用空間で繋ぎ、道路とは反対側に人の流れを中心とした動線を設け、コミュニティを構成する計画である。模型写真から、2階建ての通路で整然と繋がれた平面が、シンプルであるが説得力のある立体構成となっている。この建物群が敷地近隣図のどこに位置するのか特定できる書き込みがないが、他の場所でも展開できる普遍性を持った計画と考えてよいであろう。

フラットルーフの建物が並んだ配置であるが、雪に対する備えは大丈夫なのかといった指摘もあった。表題にある「賑やかなコミュニティスペースと一体化した生活空間」が感じられるパースやスケッチが1枚も添えられていないのが残念。もし施設使用者の賑やかな生活風景がどこかに描かれていれば、もう一つ上の評価が得られたであろう。(廣瀬)



審査委員長特別賞

国際力と人間力と空き家力

大阪② | 大阪市立都島工業高等学校 選手…3年生[男子4名]



自分たちで直す。古い町家や民家を自分の手で直して住みたいという夢を描いている人は多いはずだ。が、ここに自分たちで直せる生徒たちが登場した。都島工業高校で学ぶ生徒たちだ。木構造の加工、左官、造作、鉄筋加工や溶接などの技術を鍛えている教育機関に学んでいる。その教育カリキュラムに現実的な目的を持たせ、その知見と技術力を生かして取り組む。その対象に「空き家を生かす」が据えられた。

発想の転換により、どちらかというマイナス要素であった空き家が、リフォームする対象になることでプラス要素に変わった。教育、観光、災害時などさまざまな分野の備えとして空き家が機能する。これは強い。

同様な取り組みを試みている教育機関があったとしても、今回評価することが妨げにはならないだろう。私なりに類推を進めれば、放置されてきた旧家が教材になり、町並みの修復が実技習得の場になる。この発想を、どこかの町で長期に生かせると面白そうだ。1年1年修復が進み、町の魅力が甦る。想像しただけで胸が躍る。そして〴〵仕組み、にまで発展できたら、さらに確実なものになりそうだ。どこかの町との幸福な出会いを祈りつつ特別賞を送る。その代わり頑張ってもらいたい。(片山)

